

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、高い目的意識のもと自身の進路を実現し自立できる生徒を育成する。
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じ、感性豊かな人間性を持つ生徒を育成する。
- 3 地域との連携・交流を深め、社会に貢献できる多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進める。

生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、授業理解度を毎年 2%以上引き上げ、令和 4 年度にはそれぞれ 70% (H29:66%, H30:70%, R1 :67%) 83%以上 (H29:73%, H30:77%, R1 :80%) にする。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

生徒向け学校教育自己診断における授業集中度、家庭学習度を毎年 2%以上引き上げ、令和 4 年度にはそれぞれ 85%以上 (H29:75%, H30:78%, R1 :82%) 40%以上 (H29:46%, H30:46%, R1 :38%) にする。

(2) より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。

共通テスト受験者数を引き上げ、65 名以上をめざす。(H29:70 名, H30:58 名, R1 :58 名)

令和 4 年度までの 3 年間で、国公立大学 3 名 (H29: 2 名, H30: 1 名, R1 : 1 名)・難関私立大学 20 名以上 (H29:27 名, H30:18 名, R1 :14 名) の合格 (現浪合わせて) をめざす。

(3) 図書活動の推進により、将来への夢や志を育み自身の進路を探求させる。

ア あらゆる教育活動における読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定や GTEC にチャレンジする意欲を持たせる。

ウ 国語科読書マラソンの取組みを通じ、読書好きの生徒を育てるとともに言語活動の充実を図る。

図書館の年間貸し出し数 8,500 冊以上をめざす。(H29:8940 冊, H30:6903 冊, R1 :7878 冊)

GTEC の受験者数を 400 名以上とする。(H29:未実施, H30:未実施, R1 :392 名)

2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を充実させる。

ア 基本的な生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自主性にあふれた生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。

生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度を毎年 1%以上引き上げ令和 4 年度には 70%以上 (H29:73%, H30:68%, R1 :68%) に、担任以外に気軽に相談できる先生の存在肯定率を毎年 2%以上引き上げ令和 4 年度には 48%以上 (H29:43%, H30:46%, R1 :46%) にする。また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 (平成 31 年度 90%) を 92%以上 (H29:88%, H30:89%, R1 :90%) に引き上げ、継続をめざす。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を 90%以上 (H29:86%, H30:88%, R1 :89%) に、部活動満足度を毎年 3%以上引き上げ、令和 4 年度 87%以上 (H29:81%, H30:84%, R1 :82%) に、また部活動加入率を毎年 2%引き上げ、令和 4 年度には 68%以上 (H29:61%, H30:65%, R1 :65%) にする

イ ノークラブデーの徹底により働き方改革を推進する。

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。

ア 高大・企業連携を盛り込んだ 3 年間のキャリアプランを確立させるとともに、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率、進路情報満足度を毎年 1%以上引き上げ令和 4 年度にはそれぞれ、87%以上 (H29:76%, H30:80%, R1 :85%) 85%以上 (H29:77%, H30:78%, R1 :83%) にする。

イ 日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者への思いやりにあふれる生徒を育成するとともに 3 年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。

生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 (令和元年度 85%) 命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度 (令和元年度 79%) を毎年 1%以上引き上げ令和 4 年度にはそれぞれ、87%以上 (H29:70%, H30:79%, R1 :85%) 81%以上 (H29:69%, H30:73%, R1 :79%) にする。

3 地域連携・交流の確立と伸長

(1) 地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。

ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。

生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率、近隣の学校との交流の多さ肯定率を毎年 2%以上引き上げ令和 4 年度にはそれぞれ、35%以上 (H29:52%, H30:37%, R1 :33%) 30%以上 (H29:40%, H30:29%, R1 :27%) にする。

イ HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒用】 「学校に行くのが楽しい」86%、「進学してよかった」90%と肯定的な評価は高い。</p> <p>「授業に満足している」は67% 77%、「授業について行けている」も80% 83%とR01と比較して伸びている。</p> <p>「家庭学習時間1時間未満」54% 53%、「スマホ使用時間3時間以上」が62% 69%とR01と比べ、学習よりスマホ中心の生活であることがより顕著になっていることが読み取れる。家庭学習時間の確保が課題である。</p> <p>「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」79% 85%、「人権の大切さを学ぶ機会がある」85% 91%、とR01と比較して伸びている。</p> <p>「地域の人々と関わる機会がある」33% 31%、「近隣の学校と交流する機会がある」27% 26%とR01と比べより低い値となった。コロナ禍での交流活動の在り方の検討が必要である。</p> <p>【保護者】 「ホームページは役立っている」が昨年度と比べ64% 78%と大幅に増加した。臨時休業中にメーリングリストを活用して保護者連絡を行ったためであると考えられる。</p>	<p>【第1回】令和2年7月20日(月)[書面開催] (1) 新型コロナウイルス感染症対応 生徒への影響が心配。生徒へのサポートが必要。</p> <p>【第2回】令和2年12月2日(水) (1) 山本高校の特色づくりについて 学校行事や部活動に熱心に取り組む姿が、山高生の特徴である。今後も行事や部活動の充実を図るべき。 「明るい」イメージがある。 山本高校は、普通科であることが強みである。生徒のほとんどは地元(中河内地域)から通学しており、地域交流も行われている。今後も地域密着を大切にしていきたい。 地元で活躍している本校卒業生は多い。卒業生とのつながりをもっと活用できれば起業家教育にもつながる。サポートは惜しまない。 保護者を安心させる伝統はある。今後はさらなる「売り」が必要。そのためには実績(進学、部活動等)が必要。 今後導入予定の生徒用ICT端末等や動画配信サービス等の活用が必要。</p> <p>【第3回】令和3年3月8日(月)[書面開催] (1) 「令和2年度学校経営計画及び学校評価」について 遅刻者数の大幅減少は、新型コロナウイルス感染症予防対策の関係での臨時休業があったとしても1年生のSHRの導入が大きいと思う。今後は、学校全体の取組として導入されることを望む。 新型コロナウイルス感染症の影響で、数値が低下した事項があるのは致し方ない。 (2) 第2回授業アンケートの結果について 授業アンケート結果では、特定の学年の特定の教科で問6の数値の低さが気になる。今後はICT機器などを十分に活用した授業改善が望まれる。 (3) 学校教育自己診断の結果について 「授業満足度」が10ポイントアップしているが、コロナによる臨時休業で、多くの生徒が授業に対する「飢え」を感じていたことも要因としてあげられると思う。生徒にとって、本当に魅力ある授業づくりを全ての先生方に期待する。 (4) 「令和3年度学校経営計画及び学校評価(案)」 地域連携交流の中で、できれば卒業生で活躍している人の話を聴く機会や地域の企業とのかかわり、地域の人との交流で人生を豊かに、たくましく生きるヒントをつかむ機会を生徒に与えてあげていただきたい。 新型コロナウイルス感染症により教育活動が大きく影響を受けている。その中で学校経営計画に沿って様々な教育活動を実施していく事はたいへんな事だと思うが、頑張っていたいただきたい。 (5) その他 山本高校は歴史もあり、生徒や保護者の満足度が高く、安定した人気があると思うが、近年、近隣の高校の希望人数が急増している。交通の便が良くなり他市から通学しやすくなったためという理由もあるうが、他の理由のあるのではないかと思う。山本高校ももっと人気のある高校になっていただきたい。 新型コロナウイルスが国内で広まり、はや一年が経過した。国内でもワクチン接種が始まったが、一般に広まるのはまだ時間を要すると思う。生徒とその保護者が安心して学校生活を送れるよう、引き続き対応をお願いしたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善への取組み ア 習熟度別・少人数展開 授業の充実 イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進 ウ 成績中位者・成績不振者層の指導充実</p>	<p>(1) ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」(第1学年)「英語」(第1学年・第2学年)の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。 イ・運営委員会、教務部が主体となり授業公開週間を定め(9月~11月)グループによる相互授業見学・相互評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果による分析と課題把握を行い授業改善を進める。 (各教科へのフィードバック) ウ・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を設定することで家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。加えてアルバイトをしている生徒の状況を把握する。</p>	<p>(1) ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の肯定率 83%(令和元年度 82%) 数学1年 82%(令和元年度:81%) 英語1年 84%(令和元年度:83%) 英語2年 83%(令和元年度:82%) イ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 69% (令和元年度 67%)、 授業理解度 82% (令和元年度 80%) ウ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒 47%以上 (令和元年度 46%) 家庭学習習慣ゼロの生徒 28%以下 (令和元年度 28%)、 アルバイトをしている生徒 46% (令和元年度 47%)</p>	<p>(1) ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の肯定率 79%() 数学1年:77%() 英語1年:87%() 英語2年:85%() 英語1年及び英語2年は目標を達成したが数学1年は達成できなかった。さらなる向上に向けた検討が必要。 イ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度:77%() 授業理解度:83%() 両目標とも達成できた。引き続き、公開授業等を通じてさらなる授業改善に取り組みたい。 ウ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒:49%() 家庭学習習慣ゼロの生徒:25%() アルバイトをしている生徒:40%() すべての項目で目標を達成できた。但し、アルバイトについては、コロナウイルス感染症の影響でアルバイト先が減ったことも影響していると考えられる。</p>
	<p>(2) より高い進路実現への取組み ア 目標・能力に応じた進学講習体制の充実</p>	<p>(2) ア・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習(通常、夏期・冬期)の充実を図り大学進学希望者を2月・3月入試まで主体的に学習させる。 (3年生2月講習の実施)</p>	<p>(2) ア・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の75%以上。(令和元年度 73%) ・共通テスト受験者 60名 (令和元年度[センター試験]58名) 国公立大合格者 3名(令和元年度 2名) 関関同立合格者(現浪合計) 20名以上 (令和元年度 14名)</p>	<p>(2) ア・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の53%() ・共通テスト出願者 94名、受験者 88名() 国公立大合格者(0名)() 関関同立合格者(20名)() ・共通テスト出願者 94名は目標値を大きく上回った。来年度以降も共通テスト活用の有用性を生徒に訴えることで、受験者を増やしていく。</p>
	<p>(3) 図書活動の推進 ア Graded Readers の活用による英語科 Book Report 取組みの推進 イ 国語科読書マラソン取組み推進</p>	<p>(3) ア・Graded Readers 蔵書数の充実を図り取組みをさらに充実させるとともに英語検定に積極的にチャレンジさせる。 イ・国語科と図書館の連携をさらに深め、学習単元の補完・補強から新しい分野へ広がる読書活動を促す。</p>	<p>(3) 貸出し図書数 8000冊以上 (令和元年度 7878冊) ア・Graded Readers 3800冊 (令和元年度 3693冊) GTEC 受験者数 400名以上 (令和元年度 392名) イ・読書マラソン提出カード 平均 11冊 (令和元年度 10冊)</p>	<p>(3) 貸出し図書数:3790冊(R01:7878冊)() 目標を大きく下回った。図書館活動(新刊図書紹介等)のさらなる啓発活動が必要である。 ア・Graded Readers:1887冊(R01:3693冊)() GTEC 受験者数 648名(目標値:400名)() 貸出冊数が大きく下回った。英語の授業との更なるタイアップ等の取組が必要である。 GTECについては1・2年生が全員受験となった。今後も1・2年生の全員受験を続けていく。 イ・読書マラソン提出カード 実施せず() 今年度は国語科の意向を踏まえ読書感想文の提出を実施した。今後は読書マラソンの在り方について検討する。</p>

<p>2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成</p>	<p>(1) ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府の SC 事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。 (教育相談委員会の活用)</p> <p>イ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決のため、教職員の情報共有を図るとともに、「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。</p> <p>ウ・全教員による登校指導を継続し、生徒の安全確保、遅刻者数の減少に努める。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度 69% (令和元年度 68%) 気軽に相談できる担任以外の先生の存在肯定率 47%(令和元年度 46%)</p> <p>教育相談委員会の月 1 回以上の開催 (令和元年度:13 回)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 91% (令和元年度 90%) いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 83%(令和元年度 82%)</p> <p>ウ・年間遅刻者数 1098 名以下 (令和元年度 10%減) (令和元年度:1220 名)</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度:71%() 気軽に相談できる先生の存在肯定率:49%() いずれも目標を達成できたが、「気軽に相談できる先生の存在肯定率」がそもそも低い。日常的な教員の声掛けを実施したい。</p> <p>教育相談委員会 14 回開催 (R01:13 回)() 目標を達成できた。引き続き教育相談委員会を活用し生徒支援に取り組んでいく。</p> <p>イ・落ち着いた環境の肯定率:94%() 教員の真剣な対応肯定率:88%() いずれも目標を達成できた。今後も落ち着いた環境を維持していく。</p> <p>ウ・年間遅刻者数:746 名 (R01:1220 名) (R01 年度比 39%減)() 1 年生担任団が朝の SHR を導入するなど新たな取組の結果、目標を達成できた。次年度の 1 年生担任団にも実施を働きかける。</p>
	<p>(2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 ア 生徒会活動の活発化と学校行事等の充実 イ 部活動のさらなる活性化に向けた取組みの推進</p>	<p>(2) ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。</p> <p>イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。 (春・秋の 2 回実施) ・近隣中学校との部活動交流を推進する。 (技術指導・合同練習)</p> <p>・ノークラブデーや全庁一斉退庁日など「働き方改革」の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。</p>	<p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 90%以上 (令和元年度 89%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における部活動満足度 83% (令和元年度 82%)、 部活動加入率 66% (令和元年度 65%)</p> <p>・ノークラブデー、 全庁一斉退庁の徹底 下校指導当番の継続</p>	<p>(2) ア・学校行事満足度:90%() 目標を達成できた。今後も引き続き学校行事の充実に取り組んでいく。</p> <p>イ・部活動満足度:87%() 部活動加入率:70%() いずれも目標値を達成できた。今後は加入していない生徒へのさらなる声掛け等を通じて、部活動加入率向上に取り組んでいく。</p> <p>・週 1 日のノークラブデーの設定 金曜日を一斉退庁日 下校指導当番を継続実施() 今後は金曜日の教員の居残り状況を経年比較するなど、引き続き下校指導当番を継続実施していく。</p>
	<p>(3) 総合的なキャリア教育・人権教育の充実 ア 高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実 イ 外部人材の活用によるキャリア教育の実践 ウ 3 年間を見通した人権教育の実践と充実</p>	<p>(3) ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会(2 年生/7 月)を実施する。</p> <p>イ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。</p> <p>ウ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。</p>	<p>(3) ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 84%(令和元年度 83%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 86%(令和元年度 85%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 86% (令和元年度 85%) 命の大切さを学ぶ機会度 80% (令和元年度 79%)</p>	<p>(3) ア・進路情報満足度:88%() 目標を達成できた。今後も大学等を招いての校内説明会を充実させるなど、生徒ニーズに応じた行事を実施していく。</p> <p>イ・進路・生き方を考える機会肯定率:86%() 目標を達成できた。今年度はコロナ禍で実施できなかった「先輩に学ぶ」を来年度は実施する。</p> <p>ウ・人権の大切さを学ぶ機会度:91%() 命の大切さを学ぶ機会度:85%() いずれの目標も達成できた。今後も人権講演会等を通じて機会度の向上に取り組んでいく。</p>

<p style="text-align: center;">3 地域連携・交流の確立と伸長</p>	<p>(1) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み</p> <p>ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進</p> <p>イ 学校説明会、中学校訪問のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会、クラブ活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の幼稚園、小・中学校との交流をさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。(地域の施設等での出張演奏等) ・それぞれの活動の一般生徒への広がりや広報(周知)による認識を高める。 <p>イ・本校のアドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者に明確に伝わるよう中学訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発なHP情報更新により効果的な情報発信に努める。(PTA連絡メールの活用) 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における近隣の学校との交流の多さ 肯定率 28% (令和元年度 27%)</p> <p>地域との関わりの多さ 肯定率 34% (令和元年度 33%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動成果の校内掲示等の実施 <p>イ・学校説明会 3 回以上実施 参加者 1220 名以上 (令和元年度 1211 名)</p> <p>中学校訪問 65 校以上(広報用) (令和元年度 63 校)</p> <p>保護者向け学校教育自己診断におけるホームページは役立っている 肯定率 65% (令和元年度 64%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 近隣の学校との交流の多さ肯定率: 26% () 地域との関わりの多さ肯定率: 31% ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾支援学校の生徒作品を文化祭で展示。今年度はコロナ禍で地域交流に係る行事等が実施できなかった。来年度、状況が改善されれば地域交流に取り組んでいく。(-) ・今年度はコロナ禍で地域交流に係る行事等が実施されなかった。() <p>イ・学校説明会 4 回実施 参加者 1017 名 () 目標値の 3 回を上回った。生徒による説明(2 回実施)は好評であった。来年度も 3 回以上実施するなど、説明会の運営を工夫する。</p> <p>中学校訪問: 10 校 () 今年度はコロナ禍で中学校訪問が実施できなかった。来年度は例年並みに実施する。</p> <p>ホームページは役立っている肯定率: 78% () 臨時休業中の PTA メール活用により、肯定感が大幅に上昇した。今後も PTA メールを活用し、学校の取組等の発信に努めていく。</p>
--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------